

## ■岡崎市内景況調査結果（平成26年1～3月期分）

景況DIは4期連続で回復しプラス転換も、先行きは大幅悪化を懸念！

○調査対象：本所各部会役員・幹事451事業所

○有効回答：207事業所（回答率45.9%）

○調査期間：平成26年4月3日～4月22日

○調査方法：ファクシミリによるアンケート方式

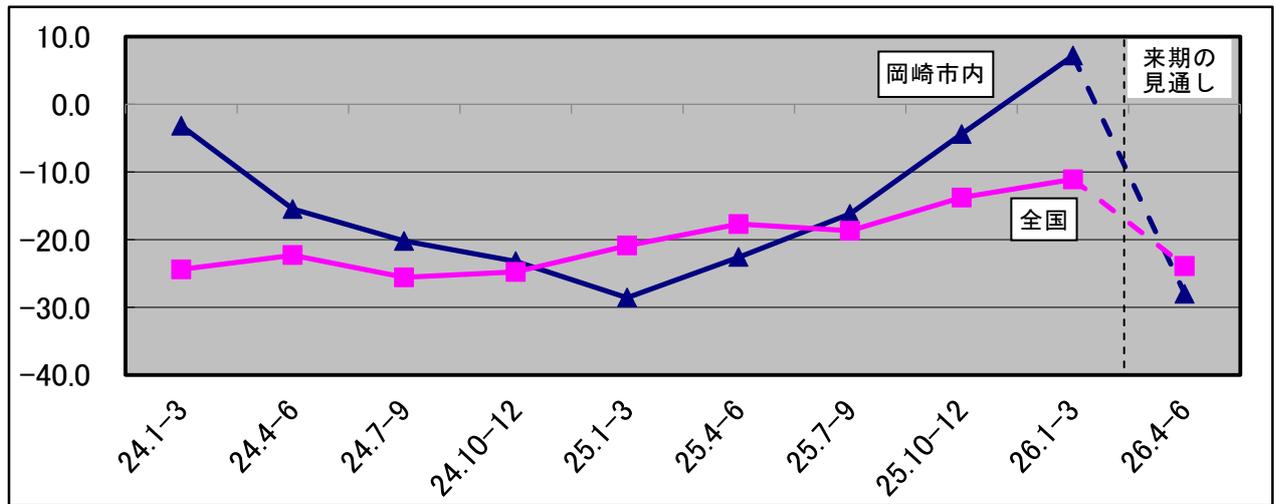
○調査内容：（1）前年同期（平成25年1～3月）と比べた今期（平成26年1～3月）の状況

（2）今期と比べた来期（平成26年4～6月）の先行き見通し

（3）付帯調査－昨年同期と今年上期の設備投資実施・計画動向

業種（対象数）	回答企業数	構成比
製造業（125）	70	33.8%
建設業（102）	43	20.8%
小売・卸売業（103）	46	22.2%
サービス業（121）	48	23.2%
合計（451）	207	100.0%

## ■市内景況全体の概要



※全国平均は、（独）中小企業基盤整備機構が発行する中小企業景況調査報告書より引用

（全国の商工会議所、商工会の経営指導員、及び中小企業団体中央会調査員による聞き取り調査。）

○岡崎市内の全業種の今期（平成26年1～3月）景況DIは4期連続の回復基調で、本調査開始（平成16年度）以来初めてプラス領域に至り、7.2（前期比11.6ポイント増）となった。全業種ともに回復傾向がみられ、特に製造業と小売・卸売業が2ケタのプラス領域。変化幅も製造業、建設業、サービス業が2ケタの上昇傾向を示した。

○全業種の来期（平成26年4～6月）景況DIは、△28.0（今期比35.2ポイント減）で、消費税率引上げ後の景気回復腰折れ懸念から、全業種ともに2ケタポイント減と大幅な悪化の見通しとなった。

### 【データ：全業種】

	前期 (H25.10-12月期)	変化幅	今期 (H26.1-3月期)	変化幅	来期の見通し (H26.4-6月期)
景況	△4.4	↑11.6	7.2	↓35.2	△28.0
売上額※	4.9	↑23.1	28.0	↓56.5	△28.5
資金繰り	△3.4	↑5.3	1.9	↓16.4	△14.5
採算(収益)	△7.9	↑12.2	4.3	↓34.3	△30.0

※売上額は、建設業では完成工事(請負工事)額

○本報告書中のDIとは、「ディフュージョン・インデックス」（景気動向指数）の略で、各調査項目について「増加」（上昇、好転）した企業割合から、「減少」（低下、悪化）した企業割合を差し引いた値である。

例えば、売上額で「増加」30%、「不変」50%、「減少」20%の場合のDIは、 $30 - 20 = 10$ となる。

また変化幅は、「景況」、「売上額」、「資金繰り」、「採算（収益）」のプラス幅が増加し「↑」であれば企業経営にとって良好になっていることを意味する。一方「原材料仕入価格」、「製品在庫」では、変化幅が「↑」であれば、「増加」が増えていることから、企業経営にとっては悪化したことを意味する。

## ■業種別の概要

### (1) 製造業

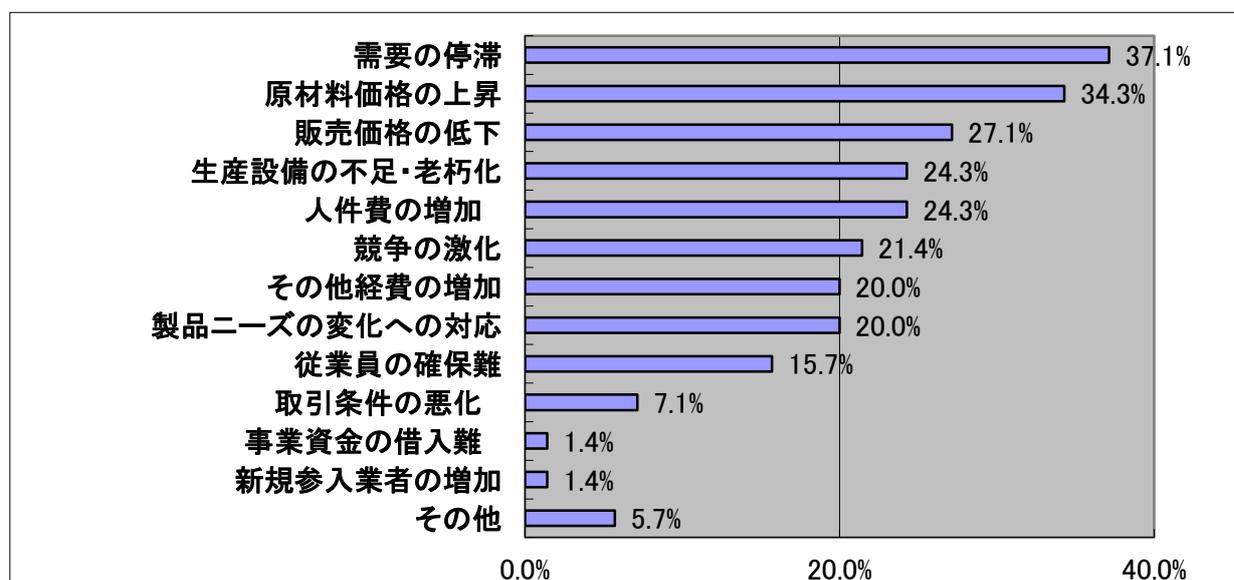
○今期景況DIは、10.1（前期比11.7ポイント増）。主力の自動車部品関連や機械製造業を中心に景況感は大幅に回復してプラス領域となり4期連続で2ケタの改善傾向を示した。

○来期景況DIは、△34.8（今期比44.9ポイント減）。輸出産業が中国などアジア諸国の成長鈍化に加え、国内では消費税率引上げに伴う駆け込み需要後の一服感により一転、売上額DIは過去最大の下落幅を示して、景況感は大きく悪化の見通しとなった。

#### 【データ：製造業】

	前期 (H25.10-12月期)	変化幅	今期 (H26.1-3月期)	変化幅	来期の見通し (H26.4-6月期)
景況DI	△1.6	↑11.7	10.1	↓44.9	△34.8
売上額	20.3	↑9.7	30.0	↓65.8	△35.8
原材料仕入価格	39.1	↑10.9	50.0	↓14.2	35.8
製品在庫	3.2	↓3.2	0.0	↓3.1	△3.1
資金繰り	△1.6	↑7.3	5.7	↓22.1	△16.4
採算(収益)	0.0	↑10.0	10.0	↓44.3	△34.3

#### 【経営上の問題点】※複数回答



- (その他)・消費増税に依る景気悪化  
 ・消費増税後の売上鈍化  
 ・事業継承  
 ・電力単価の上昇分の価格転嫁  
 ・電力費の値上げによる負担増大  
 ・工場の建て替え

#### 【主な事業者の声 ～直面する経営課題・業界動向～】

- ・消費増税引上げ前の駆け込み需要後、一転増産状況に陥った。(自動車部品製造業・機械製造業)
- ・電気料金の値上げは企業経営にかなり圧迫し、相当の対策が必要です。代替エネルギーも必要コストが実用に向けて見合うのか疑問。(プラスチック製品製造業)
- ・円安による電気料金の値上げ、原材料の値上げに不満。(印刷業)
- ・2月末より急激に売上増となるが、年間では前年度と全く変わらない状況。4月以降は、原材料不足による価格上昇が見込まれ先行き不透明。(繊維業)
- ・需要はあるが人手不足感が強い。(自動車部品製造業)

## (2) 建設業

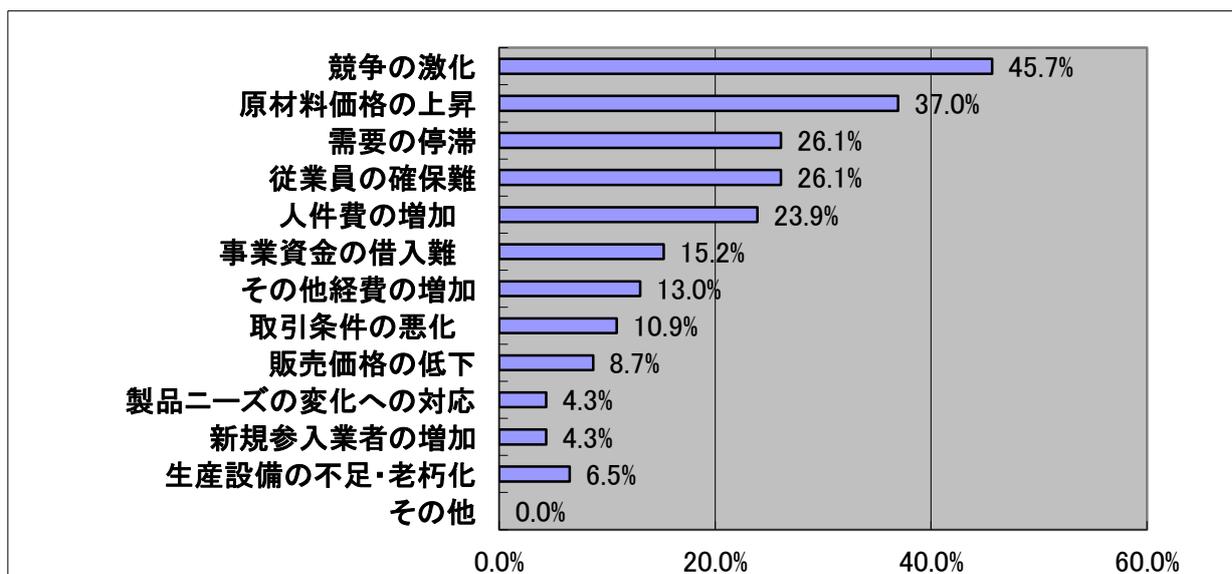
○今期景況DIは、2.5（前期比10.0ポイント増）。消費税の駆け込み需要で全般に好調で職人不足や資材価格の高止まりがみられる。価格競争が厳しい公共工事関連も経済対策の恩恵で上積みもみられ、総じて景況感は改善、プラス領域となった。

○来期景況DIは、△11.9（今期比14.4ポイント減）。景気の足踏みを懸念して、下振れの見通しとなったが、駆け込み受注分の住宅関連工事と公共工事関連の積み増しが下支えして下げ幅は他業種に比較してやや小さい。

### 【データ：建設業】

	前期 (H25.10-12月期)	変化幅	今期 (H26.1-3月期)	変化幅	来期の見通し (H26.4-6月期)
景況DI	△7.5	↑10.0	2.5	↓14.4	△11.9
完成工事額	0.0	↑23.1	23.1	↓18.3	4.8
受注額(新規契約)	10.3	↑2.2	12.5	↓28.8	△16.3
資材仕入価格	70.0	↓7.5	62.5	↑0.3	62.8
資金繰り	△5.0	→0.0	△5.0	↑0.2	△4.8
採算(収益)	△12.5	↑7.5	△5.0	↓21.2	△26.2

### 【経営上の問題点】※複数回答



(その他)・人手不足 ・受注工事の減少、工期が長すぎる

### 【主な事業者の声 ～直面する経営課題・業界動向～】

- ・業者間の格差がみられるが総じて堅調で足場機材の確保もやや困難。(建築板金工事業)
- ・熟練の職人不足で大変苦勞している。(建築工事業)
- ・駆け込み需要で一時回復となったが業者間の価格競争が厳しい。(石材業)
- ・発注工事に対して技術者の不足ため、思うような受注が出来ない。(土木建築工事業)
- ・新規従業員採用の確保が難しい。(土木建築工事業)
- ・消費税増税に伴う消費マインドの低下を懸念している。(建築工事業)
- ・半年間の受注見通しが立たない。(設備工事業)
- ・民間設備投資の新規需要の停滞。(管工事業)

### (3)小売・卸売業

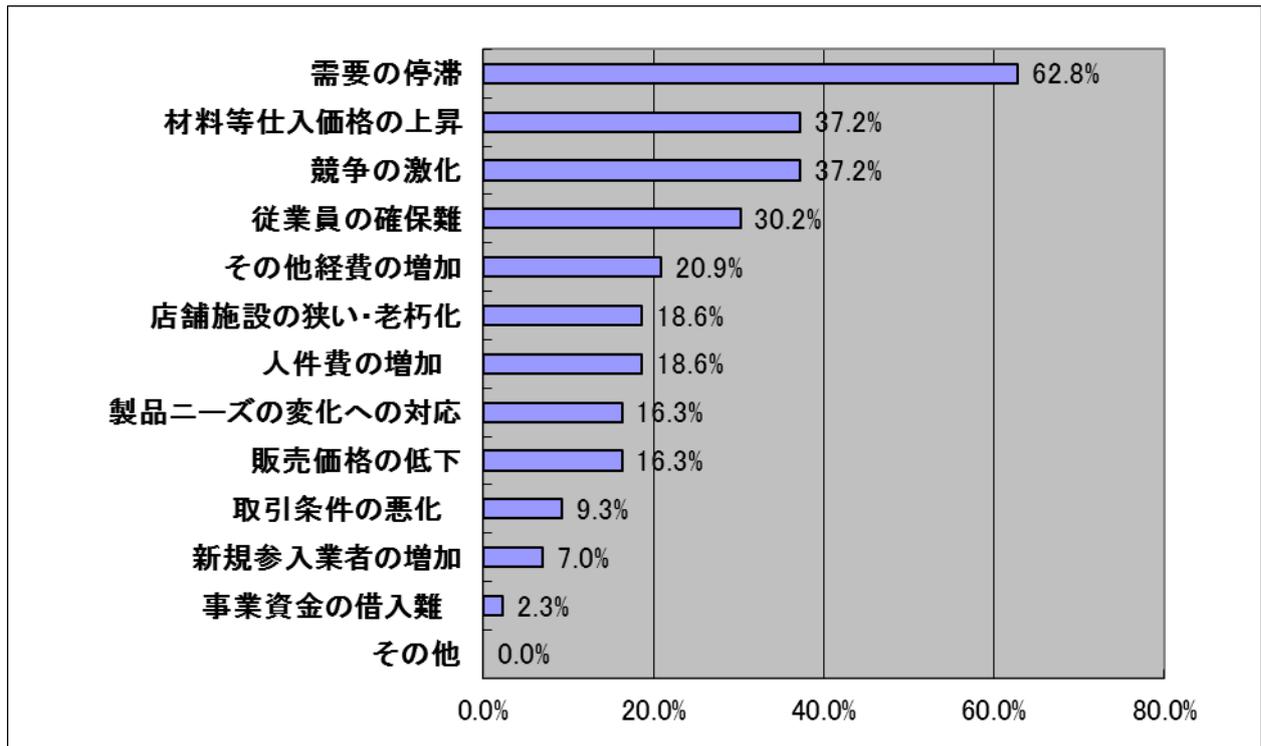
○今期景況D Iは、17.4（前期比2.8ポイント増）。年度末が近づくとつれて消費税引き上げ前の駆け込み需要に拍車がかかり、一部では高額品の売れ行きも堅調となり、売上額D Iが40ポイントを超えるなど改善傾向を示した。

○来期景況D Iは、△22.0（今期比39.4ポイント減）。消費増税後のマインドの冷え込み懸念から、売上額D Iの変化幅は80ポイントを超えるマイナスを示すなど、景況感は一転大幅に下振れる見通しとなった。

#### 【データ：小売・卸売業】

	前期 (H25.10-12月期)	変化幅	今期 (H26.1-3月期)	変化幅	来期の見通し (H26.4-6月期)
景況D I	14.6	↑2.8	17.4	↓39.4	△22.0
売上額	10.2	↑44.1	54.3	↓86.0	△31.7
商品仕入価格	49.0	↑11.9	60.9	↓9.7	51.2
商品在庫	18.4	↑9.9	28.3	↓35.8	△7.5
資金繰り	6.4	↑0.6	7.0	↓12.1	△5.1
採算(収益)	4.1	↑8.9	13.0	↓30.1	△17.1

#### 【経営上の問題点】※複数回答



#### 【主な事業者の声 ～直面する経営課題・業界動向～】

- ・消費税増税による駆け込み需要で大幅に利益改善。(宝飾品小売業)
- ・省エネカーの普及と価格高騰による節約により、需要の減退傾向が著しい。(燃料小売業)
- ・収益改善し黒字転換を果たしたが、次期は不安材料が多い。(化学製品卸売業)
- ・業界全体は良くないが、高額品を中心に売上が伸び堅調。(陶磁器小売業)
- ・非常に厳しくなると思うが、新規需要開拓に向けて模索中。(家庭用品小売業)
- ・消費税増税による節約志向から需要の低迷を懸念。(食料品小売業)
- ・3月に大幅に伸びなかった分、4月の落込みは限定的。(靴小売業)

## (4) サービス業

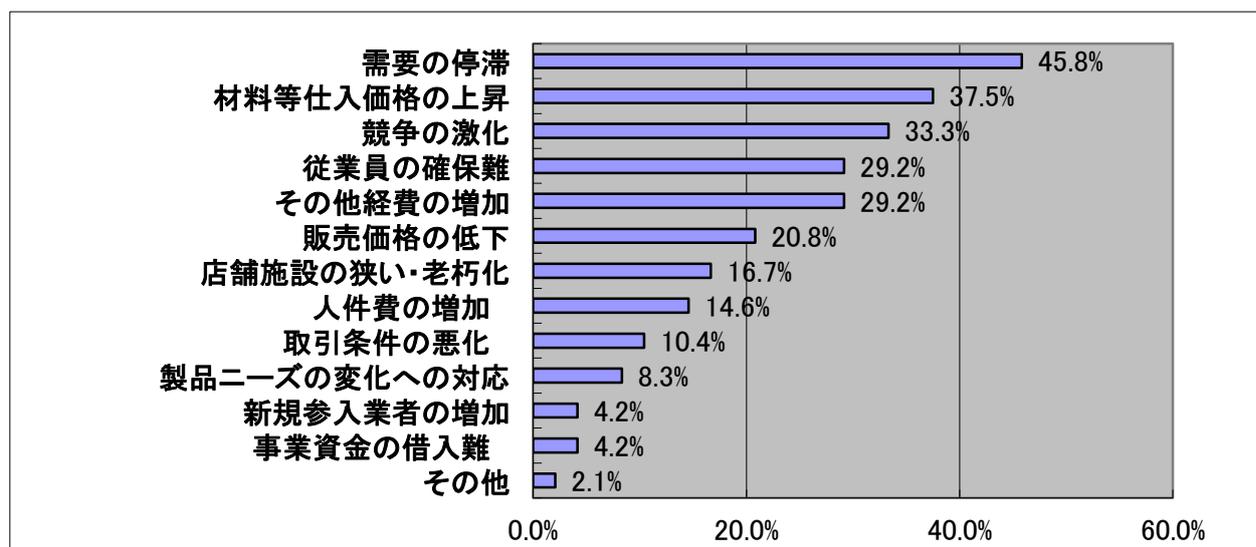
○今期景況DIは、△2.2（前期比22.3ポイント増）。景気回復の好循環で売上・採算ともに大幅改善したが、景況感はプラス領域には僅かながら届かなかった。

○来期景況DIは、△48.8（今期比46.6ポイント減）。先行きの不透明感から全DIともに過去最大のマイナス幅を示し、景況感は一気にマインド低下となった。

### 【データ：サービス業】

	前期 (H25.10-12月期)	変化幅	今期 (H26.1-3月期)	変化幅	来期の見通し (H26.4-6月期)
景況DI	△24.5	↑22.3	△2.2	↓46.6	△48.8
売上額	△16.3	↑22.7	6.4	↓59.7	△53.3
利用客数	△26.5	↑15.9	△10.6	↓27.2	△37.8
資金繰り	△14.3	↑12.2	△2.1	↓31.2	△33.3
採算(収益)	△26.5	↑22.2	△4.3	↓42.4	△46.7

### 【経営上の問題点】※複数回答



(その他)・土地購入のため利払い増加

### 【主な事業者の声 ～直面する経営課題・業界動向～】

- ・客室稼働率、宴会需要ともに堅調だった。(ホテル業)
- ・需要の停滞からやや回復傾向に向かっている。(不動産賃貸業)
- ・春の旅行需要に堅調な動きがみられた。(旅行業)
- ・特に現場作業責任者の人的確保が難しい。(ビルメンテナンス業)
- ・全体に広告収入は横ばい状況が続いています。(民間放送業)
- ・消費税等増税の影響に左右されている。(自動車販売修理業)
- ・燃料費やその他物品の価格上昇にて利益確保が不可に近い。(タクシー業)
- ・業界は好調、不調の企業が二極化しております。好調な反面人手不足が課題。(警備業)
- ・原油価格等の高値が最大の悪化要因、厳しい状況が続く。(旅客運送業)
- ・4月に入って新聞購読者からの止め連絡がかなり増加の傾向。(書籍小売業)
- ・消費税の引き上げで4月以後は不透明。(自動車整備業)
- ・消費税増税に伴う駆け込み需要もその反動や電力費等値上げで厳しい。(鉄道業)